

プレスリリース 2011年

福島第一原子力発電所において行方不明となっていた当社社員について

平成23年4月3日
東京電力株式会社

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の影響により、福島第一原子力発電所4号機タービン建屋において、現場調査中の当社社員2名が行方不明となりました。

当社では、これまで全力で捜索活動を続けてまいりましたが、本年3月30日午後3時25分頃および同日午後3時53分頃、同建屋地下1階において当該社員2名が発見され、昨日までに死亡が確認されました。

亡くなった社員2名のご冥福をお祈り申し上げますとともに、ご遺族の皆さまには心からお悔やみ申し上げます。

<亡くなった当社社員>

小久保 和彦(こくぼ かずひこ) 様 (24歳) 福島第一原子力発電所第一運転管理部
寺島 祥希(てらしま よしき) 様 (21歳) 福島第一原子力発電所第一運転管理部

以 上

プレスリリース 2011年

福島第一原子力発電所において行方不明となっていた当社社員について

平成23年4月3日
東京電力株式会社

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の影響により、福島第一原子力発電所4号機タービン建屋において、現場調査中の当社社員2名が行方不明となりました。

当社では、これまで全力で捜索活動を続けてまいりましたが、本年3月30日午後3時25分頃および同日午後3時53分頃、同建屋地下1階において当該社員2名が発見され、昨日までに死亡が確認されました。

亡くなった社員2名のご冥福をお祈り申し上げますとともに、ご遺族の皆さまには心からお悔やみ申し上げます。

<亡くなった当社社員>

小久保 和彦(こくぼ かずひこ) 様 (24歳) 福島第一原子力発電所第一運転管理部
寺島 祥希(てらしま よしき) 様 (21歳) 福島第一原子力発電所第一運転管理部

以 上

後日の時事通信他各紙から

4月3日に明らかにされた、
地震発生直後より4号機タービン建屋内で行方不明の作業員2人の死亡について

死亡したのは第1原発第1運転管理部の職員。

東電によると、2人は地震発生時に4号機の中央制御室で定期点検の作業をしていた。

地震発生直後、4号機タービン建屋の冷却水系のタンクで水位低下を示す警報が鳴り、指示書通りに現場責任者の当直長から水漏れがないか点検に行くよう指示された。

建屋は停電中で、2人は懐中電灯を持ってタンクの配管がある地下に向かったという。

気象庁は地震発生3分後の午後2時49分に福島県などに大津波警報を発令し、第1原発には午後3時27分頃、高さ約4メートルの第1波が到達。その8分後には高さ10メートルを超えたとみられる第2波が到達し、防潮堤を越えて敷地の建物がほぼすべて冠水した。

東電はページング（一斉通報できる通信機的一种）で大津波警報を知らせ、「屋外にいる作業員は避難するように」と指示。しかし、建屋内に津波が襲来することは想定せず、建屋内の作業員には避難は呼びかけなかった

東電は3月12日、2人が行方不明になったと発表。

その後、4号機のタービン建屋地下を搜索したが、放射線量の高い水がたまっていたため難航し、水が引いた30日に警察が遺体を確認、4月3日に多発性外傷による出血性ショック死と発表した。同日の会見で東電は、2人が地下にいた経緯を「調査中」とし、点検を指示していたことを明らかにしなかった。

東電は6月18日公表の「福島第1原発における対応状況について」と題する事故対応の調査結果でも、「当直員の安否確認を行い、地震発生と津波について、ページングで周知を行う」と当時の対応を記しているが、2人への点検指示には一切触れていない。

東電広報は当直長の指示があったことを認めた上で、大津波警報の周知について「中央制御室にも周知は徹底していたが、本人に届いたのかどうか確認はできない」としている。

【memo】

門田隆将著 『死の淵を見た男 吉田昌郎と福島第一原発の500日』 PHP 研究所 2012.12.04

第21章 七千羽の折鶴 320～340頁は、故・寺島祥希氏とその家族ほかのことを物語っている